

## 第61回 高文連放送コンテスト石狩大会 実施要領

- 1 目的 高校生の豊かな人間性の育成と校内放送活動の健全な発展を目指し、日ごろの努力の成果を発表する。
- 2 趣意 令和5年度に開催の「第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会」の地区大会として、全道大会への参加校を推薦するための選考会として実施する。
- 3 主催 北海道高等学校文化連盟石狩支部
- 4 後援 江別市教育委員会 HBC北海道放送 STV札幌テレビ放送 日本放送作家協会北海道支部
- 5 主管 北海道高等学校文化連盟放送専門部石狩支部
  
- 6 当番校 市立札幌平岸高等学校  
〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条18丁目1-2  
TEL 011-812-2010 FAX 011-812-2049 (学校)
  
- 7 会場 江別市民会館  
〒067-0074 江別市高砂町6番地 TEL 011-383-6446
  
- 8 日程 2022年10月 5日 (水) 14:00 ～ 運営会議 (江別市民会館を予定)  
2022年10月12日 (水)  
9:00 ～ 会場設営、専門委員・役員・運営委員打合せ  
12:30 ～13:00 参加受付 (ホワイエ)  
13:00 ～ 公開抽選会 (大ホール)  
14:00 ～ 交流会 (大ホール)  
15:30 ～ 開会式 (大ホール)  
2022年10月13日 (木)  
9:00 ～ 9:30 役員・運営委員・審査員打合せ  
9:30 ～ 17:00 「朗読部門」審査・講評 (大ホール)  
「ビデオメッセージ部門」審査・講評 (小ホール)  
2022年10月14日 (金)  
9:00 ～ 9:30 役員・運営委員・審査員打合せ  
9:30 ～ 「アナウンス」部門審査・講評 (大ホール)  
「オーディオメッセージ」部門審査・講評 (小ホール)  
14:30 ～ 15:30 アナウンスまたは朗読講習会 (大ホール)  
15:30 ～ 16:30 技術講習会 (大ホール)  
16:30 ～ 17:00 結果発表・表彰・閉会式 (大ホール)  
17:00 ～ 全道大会参加手続き・講評返却 (ホワイエ)
  
- 9 コンテストの各部門
  - (1) アナウンス
  - (2) 朗読
  - (3) オーディオメッセージ (AM)
  - (4) ビデオメッセージ (VM)

## 1 0 参加資格

- (1) 2022年度北海道高等学校文化連盟に加盟している高等学校の第1学年・第2学年、中等教育学校の第4学年、第5学年の生徒であること。
- (2) 特例として、上記(1)に定める生徒以外で、北海道高等学校文化連盟別途規定による大会参加資格を満たした生徒の大会参加を認める。
- (3) 結果を放送専門部公式HPに掲載するため、学校名・個人名の掲載を許諾する者。
- (4) アナウンス部門・朗読部門は、どちらか1部門に限る。
- (5) 番組部門は1校につき、各部門1作品に限る。(1部門に1校から2作品以上出品できない)
- (6) 各番組部門は、高校生の創作に限る。また他のコンクール等に参加した作品の出品は認めない。
- (7) 見学旅行等の学校行事への参加やコロナウイルス感染予防の場合は、データでの参加を認める。

## 1 1 マスコミ報道に関する注意事項

高校放送局の活動が、新聞・テレビ等のマスメディアで報道されることは、高校生の放送活動に対する社会の理解や関心を高めることにつながり、校内放送活動の発展に寄与するものである。しかし、一方で、大会で審査を受ける前の作品がテレビやラジオで放送され、多くの人の目に触れることは、大会会場での新鮮な感動を薄れさせ、審査に影響を与えてしまうことも否めない。このことをふまえ、参加校は以下のことに留意する。

- (1) 地区大会前
  - a. 地区大会前にテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることは差し控える。
- (2) 地区大会後、全道大会前
  - a. 地区大会後に、ローカルニュースなどで作品の一部または全部が報道されることはかまわない。この場合、該当校は、北海道高文連放送専門委員長に報告することとする。
  - b. 全道大会前に、全道向けのテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることは差し控える。
- (3) インターネットサイトへの掲載について
  - a. 各地区や参加校・道内のマスメディアや道内のローカルニュースサイトなどが、地区大会・全道大会の結果や順位を掲載することはかまわない。ただし、学校名・氏名などを掲載する場合は、当該校や当該生徒の許可を得て行うこと。また、全道大会終了までは、作品のタイトルがサイトに掲載されることは避けること。
  - b. 全国大会終了まで、参加作品そのもののネット配信は、作品の一部であっても差し控える。全国大会後であっても、ネット配信する際は、取材先や著作権者への許諾を必ず得る。この場合、該当校は、北海道高文連放送専門委員長に報告することとする。
- (4) 報道機関・関係機関への情報提供について
  - a. 北海道高等学校文化連盟放送専門部は、報道機関・高文連などの関係機関に本大会の参加者の学校名・氏名・作品名および入賞順位、大会中の写真などの情報を提供する。

## 1 2 参加人数・作品数及び参加料

- (1) 1校当たり次の通りとする。

ア	アナウンス部門	4名以内
イ	朗読部門	4名以内
ウ	オーディオメッセージ部門	1本
エ	ビデオメッセージ部門	1本
- (2) 参加料は次の通りとする。

ア	アナウンス部門・朗読部門	1名	2,500円
イ	オーディオメッセージ部門・ビデオメッセージ部門	1本	2,500円

1.3 参加規程 各部門の規程は第47回全国高等学校総合文化祭（鹿児島大会）に準拠します。

(1) アナウンス部門

- ア あなたの住む地域に関する話題を全国の高校生に伝える内容のオリジナル原稿とする。  
(校内の話題は不可)
- イ 発表時は「番号・氏名・本文」を読む（事前録音データの番号は100番とする）。
- ウ 計時する時間は、氏名を含めて**1分30秒以内**とする。（番号は計時しない）  
(総文祭の発表では番号はなく、**学校名・氏名を含めて計時します**)
- エ **今大会は事前に録音したデータを提出し**、当日会場に来られない場合は、そのデータを再生する。  
(データの形式は**MP3・提出方法は別記**)
- オ NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、原稿10部を作成し、大会初日の公開抽選終了後に発表番号を記入して提出すること。提出原稿は仕上がりA5版なので注意する。

(2) 朗読部門

- ア **北海道にゆかりのある作家の作品**、または**北海道を舞台とした作品**から、**原文のままを一部選んで**原稿とする。原文は変更してはいけない。参加申込書に「ゆかり」の内容を記載する。
- イ 発表時は、「番号、氏名、作者名、作品名、本文」を読む（事前録音データの番号は100番とする）。
- ウ 計時する時間は、**作品の本文のみの部分で1分45秒以内**とする。
- エ **今大会は事前に録音したデータを提出し**、当日会場に来られない場合は、そのデータを再生する。  
(データの形式は**MP3・提出方法は別記**)
- オ NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、原稿10部を作成し、大会初日の公開抽選終了後に発表番号を記入して提出すること。提出原稿は仕上がりA5版なので注意する。

(3) オーディオメッセージ部門

- ア あなたの住む地域に関する話題を取り上げた作品とする。
- イ ドキュメンタリー形式・ドラマ形式など手法は問わない。
- ウ ステレオ録音による未発表のオリジナルの作品であること。
- エ 作品は**4分以内**とし、作品の再生は運営担当者が行い、音量調整のみ参加校の代表者が行う。
- オ 作品の終わりにクレジットコール（制作は〇〇高校でした）を入れること。  
その際に、他の音が入らないようにすること。
- カ 計時は作品の第一音からクレジットコールの終わりまでとする。
- キ 作品は事前にデータで提出し、**その後の変更はできない**。（データの形式はMP3、提出方法は別記）
- ク NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、番組進行表の全部を3部、番組進行表の表紙（学校名・作品名・製作意図・スタッフのページ）を8部作成し、大会初日の公開抽選終了後に発表番号を記入して提出すること。提出原稿は仕上がりA4版なので注意する。

(4) ビデオメッセージ部門

- ア あなたの住む地域に関する話題を取り上げた作品とする。
- イ ドキュメンタリー形式・ドラマ形式など手法は問わない。
- ウ ビデオカメラで撮影した自校の未発表オリジナル作品であること。
- エ 作品の前後に**5秒**のテストパターン（静止画：形式は自由だが、本編とはっきり区別できる画を用いBGM等はいれない。カラーバーを利用しても良い。）を録画すること。
- オ 作品は**4分30秒以内**とし、作品の再生は運営担当者が行い、音量調整のみ参加校の代表者が行う。
- カ 計時は初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまでとする。
- キ **作品は事前にデータで提出し、その後の変更はできない**。  
(データの形式は、**NTSC規格・アスペクト比16:9・MP4、提出方法は別記**)
- ク NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、番組進行表の全部を3部、番組進行表の表紙（学校名・作品名・製作意図・スタッフのページ）を8部作成し、大会初日の公開抽選終了後に発表番号を記入して提出すること。提出原稿は仕上がりA4版なので注意する。

(5) 全部門共通

ア 「あなたの住む地域」について

参加規定の「あなたの住む地域」とは、「自分が通う高校の所在する地域」を意味し、その最大範囲は北海道内までとする。

イ 「地域に関する話題」について

全国高等学校総合文化祭の放送部門は、各都道府県ごとに発表が行われるなど、お国自慢の文化祭的な要素が強い大会であり、「地域」がキーワードとなっている。アナウンス原稿や番組を制作する際は、単なる自校ニュースになることは避け、地域に目を向けてテーマを設定するよう心がけたい。

ウ 著作権について

著作権の処理は、各参加校で責任を持って適正に行ってください。

【著作権処理の方法】

番組制作のために、市販の音楽やWeb上の素材を利用する場合、以下の方法で著作権処理を行ってください。

a. 著作権フリーの素材を使う場合の確認

著作権に関して【いわゆる「著作権フリー素材」の扱いについて】

1. NHK杯高校放送コンテストで許諾書の添付が不要の素材（(株)アーキーの「School Lifeシリーズ」/ (有) EXインダストリーの「著作権フリー音楽CD」/ エンドレスエコーの著作権フリーCD / サウンドファクトリーの著作権フリーCD / NHKクリエイティブライブラリー）については、本大会でも許諾書添付は不要です。
2. 本大会では、インターネット上の著作権フリー素材を使用しても構いませんが、著作権の手続き不要の旨（使用条件）が記載された文面のコピーを添付してください。（添付するコピーはA4縦とし、用紙の右上に著作処理番号を朱書きする。）その他の著作権フリー素材（CDなど）の処理は、NHK杯高校放送コンテストに準じて行ってください。
3. なお、本大会ではWeb上の素材を使用できますが、NHK杯高校放送コンテストでは一切使用できませんので、お気をつけ下さい。

b. 音源製作会社（CD製作会社又はレコード会社）に「音源使用許諾申請書」を用いて使用許諾申請をしてください。使用許諾が得られたものについては（C）へ進みます。許諾が得られない場合その楽曲は使用できません。

（※日本レコード協会03-3541-4411に問い合わせると各レコード会社の電話番号がわかります）

c. *JASRAC*の管理楽曲かどうかを確認します。*JASRAC*が管理していない場合は、管理団体もしくは個人に直接問い合わせ、使用料を支払います。*JASRAC*が管理している場合は（D）へ進みます。

（*JASRAC*のHPにある「J-WID」で検索できます）

d. *JASRAC*所定の書類（*JASRAC*のHPからダウンロード）を作成します。オーディオメッセージは「録音利用申込書」「録音利用明細書」、ビデオメッセージは「映像ソフト録音利用申込書(新譜)」です。作成した書類を*JASRAC*に送付またはFAXします。

e. *JASRAC*から許可番号が書かれた書類が送られてきます。（請求書は後日）

f. レコード会社から送られてきた回答書、*JASRAC*から送られてきた書類、それぞれのコピー台本に添付してください。

※著作権処理が不備の場合は失格になることもありますので、早めに処理を済ませてください。

不明な点があれば 事務局(札幌琴似工業高校 TEL011-661-3251) に問い合わせてください。

オ 原稿・番組進行表について

全ての「著作権」は出場校で必ず処理すること。著作権処理の内容は、NHK杯高校放送コンテストの様式に準じて、番組進行表に記載すること。

カ その他作品の内容について不明な点は、事務局までお問い合わせください。

- 1 4 審査員 主催・後援団体等より放送代表専門委員が委嘱する。
- (1) アナウンス・朗読部門 … 専門家 2名 顧問 6名
- (2) オーディオメッセージ・ビデオメッセージ部門 … 専門家 2名 顧問 6名
- (3) 審査は、専門家は100点×2人で200点。顧問審査員は最高点と最低点を除く400点満点として、専門家と顧問審査員の点数を合計して、600点満点で順位をつける。

1 5 全道大会推薦本数

- (1) 各部門の入選以上の作品を全道大会（11月18日（金）、19日（土）【江別市民会館】）に推薦する。
- (2) 入賞数は下記の表に従う。入賞者及び入賞作品を石狩地区代表として全道大会に推薦する。

アナウンス・朗読				アナウンス奨励枠		オーディオメッセージ ビデオメッセージ	
地区予選 参加人数	推薦 人数	地区予選 参加人数	推薦 人数	地区予選 参加人数	加算される 人数	地区予選 参加校数	推薦 本数
151名以上	19人	61～ 70名	10人	61名以上	5人	28校以上	10本
141～150名	18人	51～ 60名	9人			24～27校	9本
131～140名	17人	41～ 50名	8人	21～60名	4人	19～23校	8本
121～130名	16人	31～ 40名	7人			15～18校	7本
111～120名	15人	21～ 30名	6人	20名以下	3人	11～14校	6本
101～110名	14人	16～ 20名	5人			8～10校	5本
91～100名	13人	11～ 15名	4人			5～ 7校	4本
81～ 90名	12人	10名以下	3人			4校以下	3本
71～ 80名	11人						

【「アナウンス奨励年」特別枠について】

本コンテストのアナウンス部門は、高校生アナウンサー自らが学校から地域に飛び出し、独自の取材でさまざまな事実を発見し、それを優れた構成力で短い時間内にまとめわかりやすく伝えることで聞く人の心を動かせる魅力的な放送表現の部門である。

北海道高文連放送コンテストでは、より多くの生徒がアナウンスの魅力に触れてくれることを期待して、公開審査初年度の第31回大会よりアナウンス部門の全道推薦人数に奨励枠を継続している。

- (3) 全道大会参加手続きを閉会式後に行います。

1 6 表 彰

【各部門賞】

- (1) 最優秀賞 高文連石狩支部長賞(賞状・楯) 各部門第1位
- |           |              |     |
|-----------|--------------|-----|
| H B C 賞   | アナウンス部門      | 第1位 |
| S T V 賞   | 朗読部門         | 第1位 |
| 日本放送作家協会賞 | オーディオメッセージ部門 | 第1位 |
| 日本放送作家協会賞 | ビデオメッセージ部門   | 第1位 |
- (2) 優秀賞 高文連石狩支部長賞(賞状・楯) 各部門第2・3位
- (3) 入選 高文連石狩支部長賞(賞状) 各部門第4位～(入賞数)

【総合賞】

- (1) 最優秀賞 高文連石狩支部長賞(賞状・楯) 各部門の合計点数の第1位校
- (2) 優秀賞 高文連石狩支部長賞(賞状・楯) 各部門の合計点数の第2・3位校

※上記最優秀賞・優秀賞の選定については次のような各部門の合計点数によって決定する。

※同点の場合は入賞本数の多い学校を上位とする。

【◎総合賞得点基準例】

アナウンス部門・朗読部門

入賞数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位
14人の場合	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
12人の場合	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4			
10人の場合	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6					
8人の場合	15	14	13	12	11	10	9	8							

オーディオメッセージ部門・ビデオメッセージ部門

入賞数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
10本の場合	30	27	24	21	18	15	12	9	6	3
9本の場合	30	27	24	21	18	15	12	9	6	
8本の場合	30	27	24	21	18	15	12	9		
7本の場合	30	27	24	21	18	15	12			

17 参加エントリー **令和4年9月28日(水)9:00～29日(木)17:00**

参加申込書のデータを『北海道高文連放送専門部公式サイト』<https://zendo-hoso.net/>の『石狩支部』のページからダウンロードし、

石狩放送専門部事務局、参加申込専用メール、[ishikari\\_entry@zendo-hoso.net](mailto:ishikari_entry@zendo-hoso.net)に、ファイルを添付して送信するか、事務局（札幌琴似工業高校）前田秀明 宛 FAX 011-661-3252 に送信する。

（FAXによる申し込みは、その日のメールによる受付よりも後の受付番号となりますので、できる限りメールによる申し込みをお願いします。）

受付後、随時折り返し受付確認メール（自動返信以外）または FAX にて受付完了の連絡をする。

18 提出物等一覧

(1) 参加エントリーでメールに添付してください

・参加申込書（メールにて）**FAXは要相談 9月28日(水)9:00～29日(木)17:00**

(2) 大会前日 **10/11(火)13:00まで**に、事務局へ提出してください。

・アナウンス・朗読部門の事前録音データ（MP3）（録音データの番号は100番とする）  
・オーディオメッセージ作品（MP3）・ビデオメッセージ部門の作品（MP4）データ

(3) 大会初日に、本部に提出してください。

・大会参加料 1エントリーにつき、2,500円

※ 振込による支払いの希望がある場合は事務局までご連絡下さい（原則、初日に本部で入金下さい）。

(4) 大会初日、抽選終了後に提出してください。

・アナウンス・朗読部門の原稿10部 ※サイズ（A4版二つ折り右綴じ）に注意してください。

1日目 公開抽選後、発表番号を記入して提出場所へ

・オーディオメッセージ・ビデオメッセージ部門：番組進行表の綴じた冊子を3部、  
番組進行表の表紙（学校名・作品名・制作意図・スタッフのページ）を8部

1日目 公開抽選後、発表番号を記入して提出場所へ

**※受付当日会場に来られない学校については、事前に事務局（札幌琴似工業高校前田）に連絡し、参加料は持参もしくは振り込み、原稿と番組進行表については、事前に持参もしくは郵送等で事務局まで提出する。**

**【お願い】トライアル（順位対象外の審査基準）の募集**

- 対象部門 : アナウンス部門・朗読部門  
対象生徒 : 本大会にエントリーしない者  
申込み : エントリーと同時に申込み  
その他 : ・審査員からの講評も受けることができる。  
・希望者が多数の場合は、事務局で厳正に抽選を行う。  
・トライアル出場者は、はじめに「トライアル ○番」から読み始める。  
・**トライアル出場者が不足した場合は、前年度の音声データを再生する場合があります。**

(5) 大会当日持参するもの

- ・名札用ケース（クリップ・紐どちらでも可） ※アナウンス・朗読の出場者、番組部門の代表者用

1.9 申込先・問い合わせ先

事務局 北海道札幌琴似工業高等学校  
〒063-0833 札幌市西区発寒1 3条1 1丁目3-1  
TEL 011-661-3251 FAX 011-661-3252 (学校)  
北海道高文連放送専門部事務局 前田 秀明  
参加申し込み用 [ishikari\\_entry@zendo-hoso.net](mailto:ishikari_entry@zendo-hoso.net)  
その他一般 [ishikari@zendo-hoso.net](mailto:ishikari@zendo-hoso.net)

北海道高文連放送コンテスト・全国高等学校総合文化祭に関する申し合わせ事項(R4 一部改訂)

1. 北海道高文連放送コンテストの実施要領は、次年度の全国高等学校総合文化祭の要領に準拠する。
2. 北海道高文連放送コンテストの各部門の入賞者（校）を、次年度の全国高等学校総合文化祭の北海道代表として推薦する。
  - (1) アナウンス部門・朗読部門については、上位3人を北海道代表として推薦する。該当者が不参加の場合には、成績順にしたがって繰り上げ推薦をする。
  - (2) オーディオメッセージ部門については、上位1校を北海道代表として推薦する。該当校が不参加の場合には、成績順にしたがって繰り上げ推薦をする。
  - (3) ビデオメッセージ部門については、上位2校を北海道代表として推薦する。該当校が不参加の場合には、成績順にしたがって繰り上げ推薦をする。
  - (4) 各部門の入賞者（校）は、不参加の場合には、当該年度の12月末までに放送専門部事務局まで報告しなければならない。
  - (5) 開催都道府県が新設した部門については、できる限り前年度の北海道高文連放送コンテストで当該部門を開催するが、それが難しい場合は、原則としてオーディオ作品の場合にはラジオ番組部門の次点に入賞した学校を、ビデオ作品の場合にはビデオメッセージ部門の次点に入賞した学校を北海道代表とし推薦する。この場合も、該当校が不参加の場合には、成績順にしたがって繰り上げ推薦をする。
3. 北海道高文連放送コンテストの各部門の審査は、公開審査で行う。
  - (1) アナウンス部門・朗読部門  
各地区大会において、生徒は演示による発表参加、または録音物による参加のいずれかを選択し参加する。全道大会は、原則的には演示によっておこなうが、やむをえず録音での参加となる生徒は、原稿と録音物を速やかに作成し、提出すること。
  - (2) オーディオメッセージ部門・ビデオメッセージ部門  
各地区大会に出品された作品を手直しする事はできる。ただし、タイトルは参加申込書の通りとする。CM部門については、全道大会に進んだ学校すべてに、参加資格が与えられる。  
**※ 全部門において、通常の開催が困難と判断された場合は、事前に指定された形式で録音・録画したデータによる非公開（または一部公開）審査で行う。**
4. 全国高等学校総合文化祭に、北海道代表として推薦された各部門の入賞者（校）は、次年度の作品搬入期までに、全部門において全国高等学校総合文化祭放送部門実施要領にしたがって作品に手を加えてもかまわない。